

米国農務省穀物等需給報告(2021年2月9日発表のポイント)

令和3年2月10日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、2月9日(現地時間)、2020/21年度の10回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2020/21年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 27億1,635万トン(対前年度比 1.6%増)
- ② 消費量: 27億2,773万トン(対前年度比 2.2%増)
- ③ 期末在庫量: 7億9,852万トン(対前年度比 1.4%減)
期末在庫率: 29.3%(対前年度差 1.1ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、アルゼンチン等で下方修正されたが、カザフスタンで上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量も、中国で飼料用需要が史上最高となり、インドで食用需要等が増加することから上方修正され、史上最高となる見通し。世界の生産量が消費量を上回り、期末在庫量は史上最高となる見通し。

- ① 生産量: 7億7,344万トン(対前年度比 1.2%増)・・・豪州、ロシア、インド、カザフスタン、カナダ等で増加、EU、ウクライナ、米国、アルゼンチン等で減少
- ② 消費量: 7億6,932万トン(対前年度比 3.0%増)・・・中国、インド等で増加、EU等で減少
(前月に比べ中国、インドで上方修正)
- ③ 期末在庫量: 3億422万トン(対前年度比 1.4%増)・・・ロシア、中国、インド、豪州等で増加、米国、EU等で減少
(前月に比べ中国、インドで下方修正)
期末在庫率: 39.5%(対前年度差 0.6ポイント減)

とうもろこし : 世界の生産量は、南アフリカで作付面積の引き上げにより上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、EUで下方修正されたが、中国で上方修正され、前年度より増加する見通し。世界の生産量が消費量を下回り、期末在庫量は前年度より減少する見通し。

- ① 生産量: 11億3,405万トン(対前年度比 1.6%増)・・・米国、ブラジル等で増加、ウクライナ、アルゼンチン、EU等で減少
- ② 消費量: 11億5,052万トン(対前年度比 1.5%増)・・・中国等で増加、米国、EU等で減少
(前月に比べEUで下方修正、中国で上方修正)
- ③ 期末在庫量: 2億8,653万トン(対前年度比 5.4%減)・・・米国、中国等で減少(前月に比べ中国で上方修正)
期末在庫率: 24.9%(対前年度差 1.8ポイント減)

コメ(精米) : 世界の生産量は、インドネシア等で上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国等で上方修正され、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は、中国等で下方修正されたものの、史上最高となる見通し。

- ① 生産量: 5億402万トン(対前年度比 1.4%増)
- ② 消費量: 5億421万トン(対前年度比 1.7%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億7,810万トン(対前年度比 0.1%減)
期末在庫率: 35.3%(対前年度差 0.6ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、前月から大きな変更はなく、米国やブラジルの増産により前年度より増加する見通し。一方、世界の消費量は、中国等で飼料需要が回復すること等により増加することから、前年度より増加する見通し。世界の生産量が消費量を下回り、期末在庫量は前年度より減少する見通し。なお、米国大豆の期末在庫量は大幅に減少し、2013/14年度以来の低水準の見通し。

- ① 生産量: 3億6,108万トン(対前年度比 7.3%増)・・・米国、ブラジル等で増加
- ② 消費量: 3億6,984万トン(対前年度比 4.3%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 8,336万トン(対前年度比 12.1%減)・・・米国等で減少
期末在庫率: 22.5%(対前年度差 4.2ポイント減)

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2021年2月9日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,626.29	2,672.65	2,716.35	1.6%	2.1	2,295.7
消費量		2,640.54	2,669.93	2,727.73	2.2%	10.5	2,284.3
期末在庫量		807.17	809.89	798.52	▲ 1.4%	▲ 8.3	480.9
期末在庫率		30.6%	30.3%	29.3%	▲ 1.1	▲ 0.4	21.1%
小麦							
生産量		730.90	763.93	773.44	1.2%	0.8	660.6
消費量		734.72	746.98	769.32	3.0%	9.8	680.0
期末在庫量		283.16	300.10	304.22	1.4%	▲ 9.0	182.1
期末在庫率		38.5%	40.2%	39.5%	▲ 0.6	▲ 1.7	26.8%
粗粒穀物							
生産量		1,398.07	1,411.56	1,438.90	1.9%	0.4	1,159.1
消費量		1,421.15	1,427.16	1,454.20	1.9%	▲ 1.5	1,139.4
期末在庫量		347.10	331.51	316.20	▲ 4.6%	2.1	175.8
期末在庫率		24.4%	23.2%	21.7%	▲ 1.5	0.2	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,123.84	1,116.55	1,134.05	1.6%	0.2	898.8
消費量		1,144.49	1,133.66	1,150.52	1.5%	▲ 2.5	877.3
期末在庫量		320.11	303.01	286.53	▲ 5.4%	2.7	144.8
期末在庫率		28.0%	26.7%	24.9%	▲ 1.8	0.3	16.5%
コメ(精米)							
生産量		497.32	497.17	504.02	1.4%	0.9	476.1
消費量		484.67	495.79	504.21	1.7%	2.2	464.8
期末在庫量		176.91	178.28	178.10	▲ 0.1%	▲ 1.4	123.0
期末在庫率		36.5%	36.0%	35.3%	▲ 0.6	▲ 0.4	26.5%

【大豆】

項目	年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		361.04	336.46	361.08	7.3%	0.1	269.0
消費量		344.09	354.75	369.84	4.3%	0.0	265.2
期末在庫量		112.88	94.85	83.36	▲ 12.1%	▲ 1.0	58.1
期末在庫率		32.8%	26.7%	22.5%	▲ 4.2	▲ 0.3	21.9%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 9, 2021)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2021年2月9日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21 (予想)	2020/21		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		436.32	417.89	431.48	3.3%	0.0	353.0
消費量		357.57	355.83	350.62	▲ 1.5%	▲ 0.1	317.1
輸出货量		83.45	79.77	103.53	29.8%	1.4	51.6
期末在庫量		91.28	80.73	65.17	▲ 19.3%	▲ 1.3	44.2
期末在庫率		20.7%	18.5%	14.3%	▲ 4.2	▲ 0.3	12.0%
小麦							
生産量		51.31	52.58	49.69	▲ 5.5%	0.0	61.3
消費量		29.99	30.56	31.38	2.7%	0.0	37.8
輸出货量		25.50	26.28	26.81	2.0%	0.0	27.5
期末在庫量		29.39	27.99	22.76	▲ 18.7%	0.0	19.5
期末在庫率		53.0%	49.2%	39.1%	▲ 10.1	0.0	29.9%
粗粒穀物							
生産量		377.91	359.43	374.57	4.2%	0.0	285.3
消費量		323.02	320.68	314.16	▲ 2.0%	▲ 0.1	275.5
輸出货量		54.97	50.51	73.77	46.1%	1.4	20.7
期末在庫量		60.47	51.83	41.16	▲ 20.6%	▲ 1.3	23.5
期末在庫率		16.0%	14.0%	10.6%	▲ 3.4	▲ 0.4	7.9%
とうもろこし							
生産量		364.26	345.96	360.25	4.1%	0.0	273.2
消費量		310.45	309.51	305.45	▲ 1.3%	0.0	263.0
輸出货量		52.48	45.17	66.04	46.2%	1.3	18.5
期末在庫量		56.41	48.76	38.15	▲ 21.8%	▲ 1.3	20.9
期末在庫率		15.5%	13.7%	10.3%	▲ 3.5	▲ 0.4	7.4%
コメ(精米)							
生産量		7.11	5.88	7.23	23.0%	0.0	6.3
消費量		4.57	4.59	5.08	10.7%	0.0	3.8
輸出货量		2.97	2.99	2.95	▲ 1.3%	▲ 0.0	3.4
期末在庫量		1.42	0.91	1.25	37.4%	0.0	1.2
期末在庫率		18.8%	12.0%	15.6%	3.6	0.5	16.1%

【大豆】

項目	年度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21 (予想)	2020/21		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		120.52	96.67	112.55	16.4%	0.0	82.8
消費量		60.40	61.77	63.29	2.5%	0.0	48.6
輸出货量		47.68	45.78	61.24	33.8%	0.6	36.1
期末在庫量		24.74	14.28	3.25	▲ 77.2%	▲ 0.6	3.8
期末在庫率		22.9%	13.3%	2.6%	▲ 10.7	▲ 0.5	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 9, 2021)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

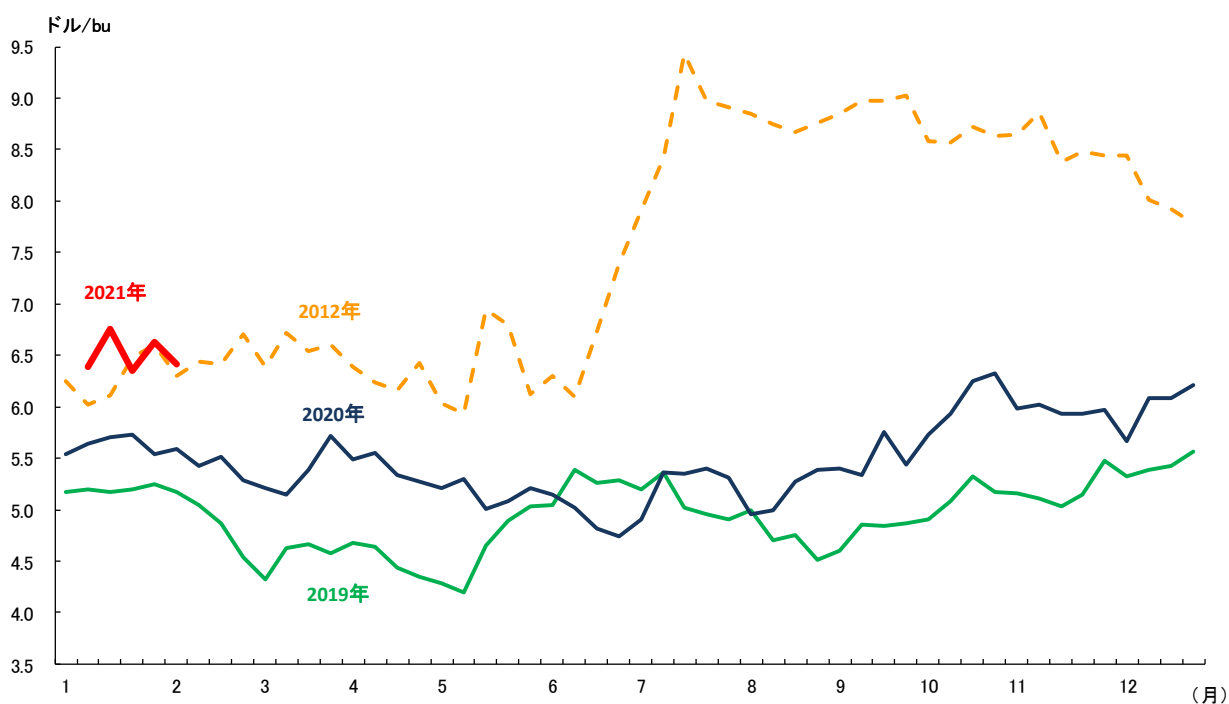
7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物の価格動向 (2021年)

- 小麦 : 6.41 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.59 ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における2021年2月第1週末(セツルメント)。)

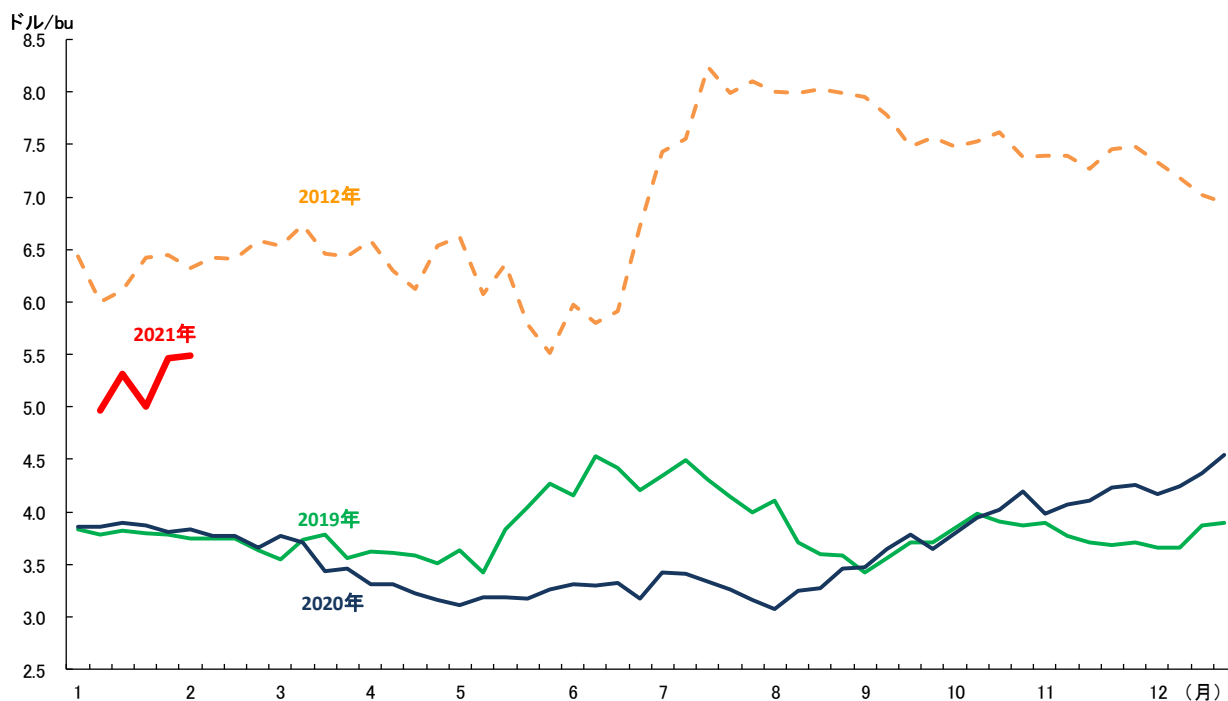
2021年1月に入り、大豆やとうもろこしの価格上昇や1月米国農務省穀物等需給報告で世界や米国の期末在庫量が下方修正されたことから6ドル/bu台後半に値を上げた。1月下旬にかけて、米國小麦生産地の降雨予報等から一時6ドル/bu台前半に値を下げたものの、ロシアの3月からの輸出税の拡大等から値を上げ1月末現在、6ドル/bu台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし：5.49 ドル/bu （前年同時期の価格：3.84 ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における2021年2月第1週末（セツルメント）。）

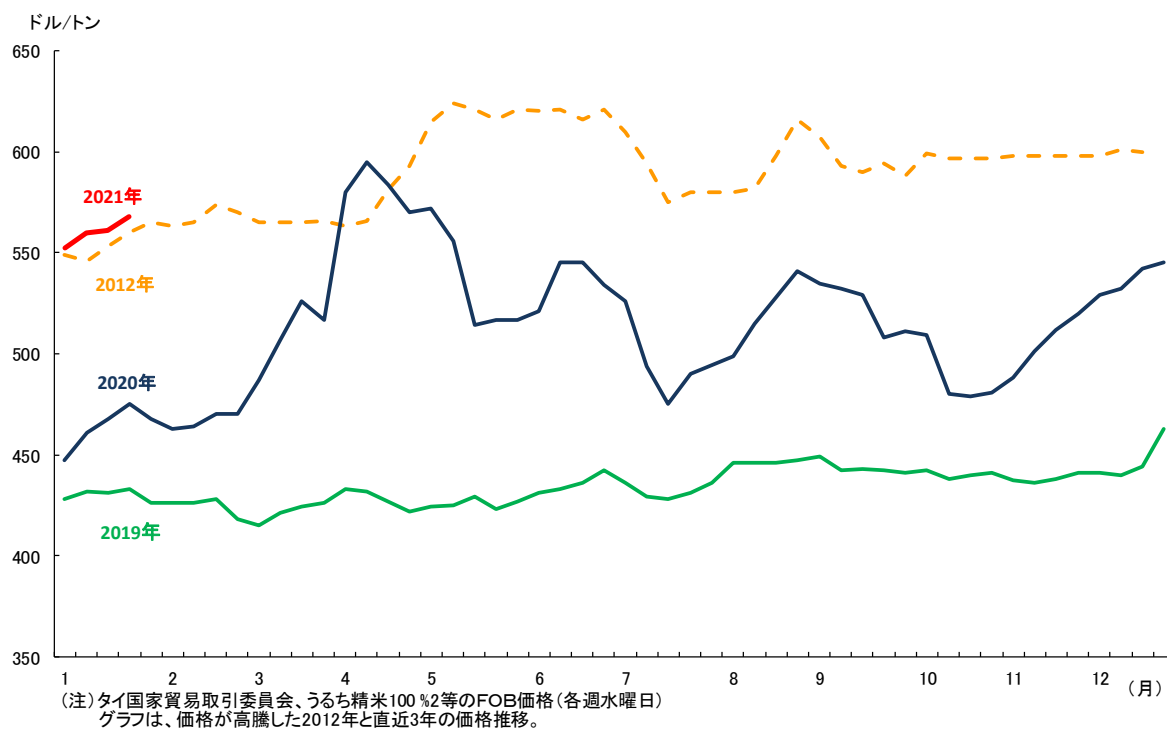
2021年1月に入り、アルゼンチンのとうもろこし輸出停止の発表とストライキ、順調な米国産とうもろこしの輸出、1月米国農務省穀物等需給報告での米国や南米の生産量が下方修正等から5ドル/bu トン台半ばまで値を上げた。その後、南米の降雨による作柄改善期待等が台頭し1月下旬に一時5ドル/bu 前後に値を下げたものの、好調な中国向け輸出から値を上げ、1月末現在5ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

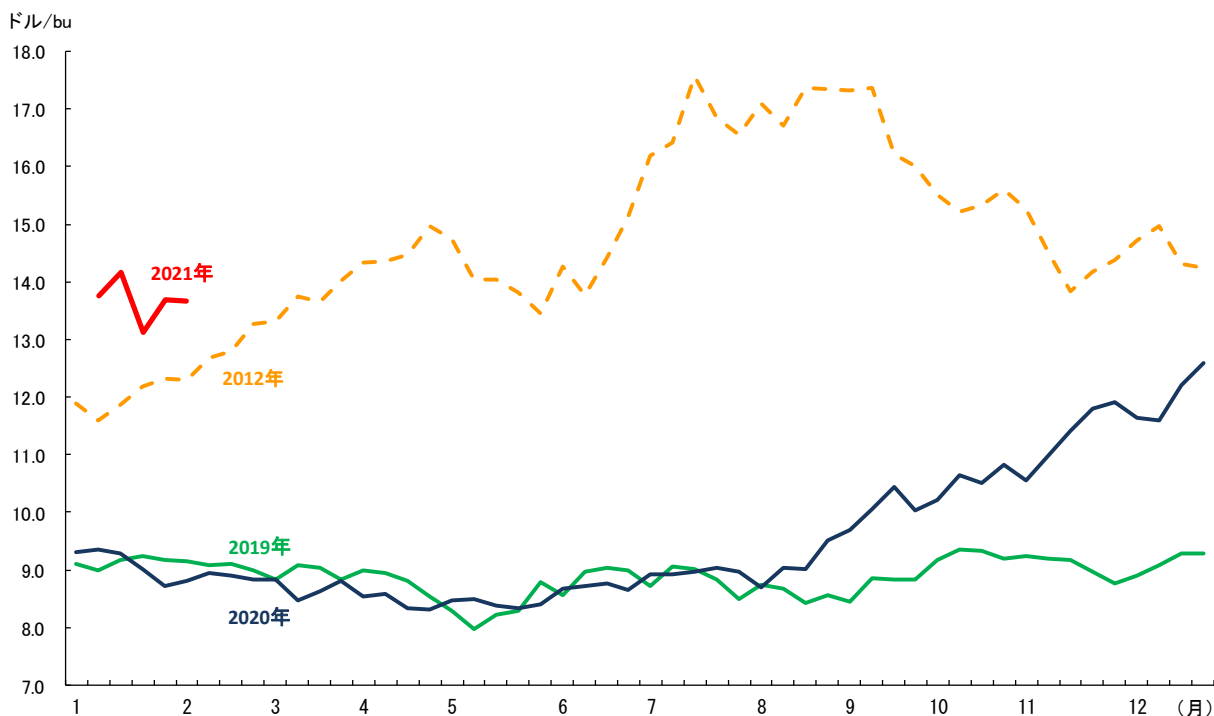
● コメ：578ドル/トン（前年同時期の価格：463ドル/トン）
 （価格は、タイ国家貿易取引委員会における2021年2月の第1水曜日のFOB価格。）

2021年1月以降、輸出用コンテナ不足による船積みの遅延から新規需要が低下したものの、パーツ高やバルク船等への輸送手段の切替えの予定等から値を上げ、1月下旬現在、560ドル/トン台後半で推移。



- 大豆：13.67ドル/bu（前年同時期の価格：8.82ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における2021年2月第1週末（セツルメント）。）

2021年1月に入り、順調な米国産大豆の中国向け輸出、1月米国農務省穀物等需給報告での米国やアルゼンチンの生産量の下方修正等から14ドル/bu台半ばまで値を上げた。その後、南米の降雨による作柄改善期待から1月下旬に13ドル/bu台前半に値を下げたものの、好調な中国向け輸出やブラジルの収穫遅延懸念から1月末現在、13ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
108.75	110.36	111.21	111.66	109.83	108.06	108.22	106.27	107.41	108.12	108.86
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
109.18	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82	103.70								

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
45.25	40.00	40.80	41.75	41.25	39.75	51.13	50.56	51.02	45.78	37.60
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
37.68	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39	46.28								

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

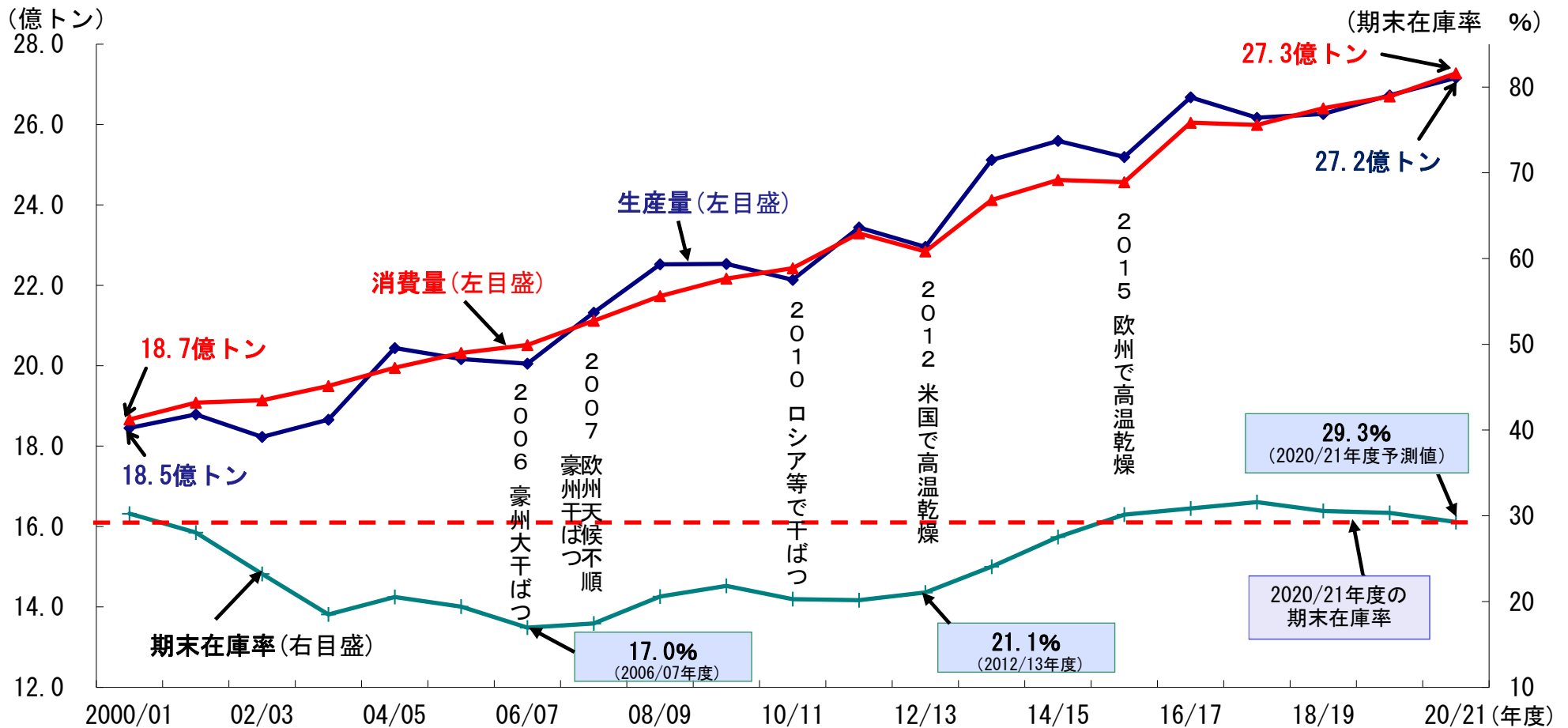
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.85
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
51.55	54.98	58.17	63.87	60.87	54.71	57.55	54.84	56.97	54.01	57.07
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
59.80	57.53	50.54	30.45	16.70	28.56	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	47.07	52.01								

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和3年1月, 120頁
但し、2021年1月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2020/21年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2020/21年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回るも、29.3%となり、直近の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 2021)、「FPS&D」
 (注) なお、「FPS&D」については、最新の公表データを使用している。